

「2型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」作成と有用性の検討

—糖尿病イメージと糖尿病コントロールの関係から—

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: 金沢大学
URL	http://hdl.handle.net/2297/37216

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 25 年 8 月 23 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 0627022006

氏 名 釜谷 友紀

論文審査員

主 査 (職名) 大桑 麻由美 (教授)

副 査 (職名) 田淵 紀子 (教授)

副 査 (職名) 稲垣 美智子 (教授)



論文題名 「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」作成と有用性の検討

—糖尿病イメージと糖尿病コントロールの関係から—

論文審査結果

【論文内容の要旨】

Disease Image (疾病イメージ) は療養行動を統制する機能を持つとされている。2 型糖尿病患者がもつ糖尿病イメージを把握することは疾病管理・合併症予防に有用であると考え、質的手法により見出した 28 項目を基に、「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」原案を作成した。2 型糖尿病患者を対象に、質問紙原案、糖尿病コントロール (代謝コントロール指標: HbA1c, QOL 指標: 糖尿病問題領域質問票 (PAID), セルフケア行動指標: 慢性病者のセルフケア能力を査定する質問紙 (SCAQ)) を調査した。2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」作成には、①項目分析、②探索的因子分析による因子の抽出と命名、③構成概念妥当性の検討、④内的整合性の検討、⑤モデル妥当性の検討を行った。その後因子得点をもとに Cluster 分析で 2 型糖尿病患者を分類し、分類されたクラスター別に糖尿病コントロールとの関係を比較した。

167 名が分析対象者となり、「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」は 7 因子 28 項目を採択した。因子名は、第 1 因子『劣等を感じるイメージ』、第 2 因子『きちんと生活するイメージ』、第 3 因子『制約感のあるイメージ』、第 4 因子『衰れを感じるイメージ』、第 5 因子『付き合い合われているイメージ』、第 6 因子『不摂生のイメージ』、第 7 因子『末恐ろしいイメージ』とした。質問紙全体の Cronbach's α 係数は 0.91 であった。糖尿病イメージ 7 因子により、2 型糖尿病患者は 3 つのクラスターに分けられ、各クラスターと糖尿病コントロールの関係は、SCAQ 及び PAID 得点において各クラスターとの関係性に有意差がみられた。本研究では、「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」を作成することができ、糖尿病イメージを把握することが可能となった。

【審査結果の要旨】

口述発表は、研究内容を簡潔明瞭にまとめられていた。質疑応答では分析方法、質問紙の妥当性に対し論理的に述べられ、糖尿病合併症予防に向けた患者教育において、質問紙の具体的な活用方法が明確となった。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。